

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|---|-----------------|-------|------|
| プログラム名称 | デザイン学大学院連携プログラム | 申請大学名 | 京都大学 |
| 申請大学長名 | 松本 紘 | | |
| プログラム責任者 | 淡路 敏之 | | |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none">・京都リサーチパーク内へのデザインイノベーション拠点の設置、遠隔協働システムの導入など、短期間に体制整備を着実に実施している。また、プログラムに参画する4部局から万遍なく学生が参加している点は、全学的な連携の結果と考えられ、今後の成果が期待できる。・学生との意見交換において後述のようないくつかの検討課題も見いだされたので、これらの改善が必要と考えられる。・我が国におけるデザイン学の拠点の確立という高い志は高く評価できるが、その中における情報の位置付けが不明確のような印象を受けた。・学生は他分野との交流に大きな意義を見出しているようではあるが、博士課程教育リーディングプログラムの趣旨と異なって、ほとんどは研究職を希望しているように見えた。・二階建てのカリキュラムの結果として、学生によっては大きな負担となっており、今後、専攻の研究との両立はますます大変になると考えられる。また、本プログラムの共通科目の開講日時が専攻の科目と重なることもあった。・学生とプログラム担当教員との交流の機会が不十分との印象を受けた。・現時点では本プログラムに留学生の参加がない。・学生に対する、プログラムの制度・運用や進路に関する説明や日頃の情報提供が不十分な点が見られた。特に、半年間の予科から本科に進学後の進路変更の可能性などについて、学生は正確な理解をしていないように見受けられた。・学生との意見交換では、学生が強い動機と意欲をもってこのプログラムに参加していることがわかった。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none">・十字型人材を育成するための方法的基盤に関しては更なる検討を期待したい。・デザイン学の国際的な拠点として考えた場合に、スタンフォード、MIT、アールト大学等のデザインスクールと比べて「デザイン」の定義がいまだ曖昧としているように見受けられた。また、デザイン学の構築において、情報の位置付けをもう少し明確にしてもよいのではないか。・デザインイノベーション拠点は外部との連携には有利な反面、吉田キャンパスに常駐する学生にとっては時間調整上の問題が見られたので、適切な対応が必要と思われる。・二階建てのカリキュラムの結果として、学生には大きな負担となっており、今後、専攻の研究との両立はますます大変になると考えられる。学生は極めて意欲的ではあるので、彼らの熱意と努力に応える結果となるようお願いしたい。 | | | |

- ・現在は奨励金を支給していないとのことだが、申請調書にある当初の計画に則り優秀な学生が学修研究に専念できるような適切な対応が必要である。
- ・特に、今後遠隔地からの交通だけでも、かなりの費用になることを心配している学生もいるので、このプログラムに参加することによって、学生に大きな経済的負担が発生しないような最低限のサポートは検討すべきである。
- ・学位授与などにおいて、このプログラムに参加したことが、キャリア形成で評価されるような形を工夫してほしい。
- ・学生は、このプログラムの趣旨と異なって、現時点ではほとんどは研究職を希望しているように見えた。連携企業の範囲が比較的限られているようでもあるので、キャリアパス拡大の一環として、企業等との連携活動を強化し、アカデミア以外への進路にも興味を持つような取組もご検討いただきたい。
- ・学生に対する、プログラムの制度・運用や進路に関する説明や日頃の情報提供が不十分な点が見られるので、改善が必要である。
- ・留学生も参加するような方策を検討することが望ましい。
- ・いろいろな問題点も見られたが、教員も学生も意欲的なので、これらを克服して日本のデザイン学の拠点となることを期待する。